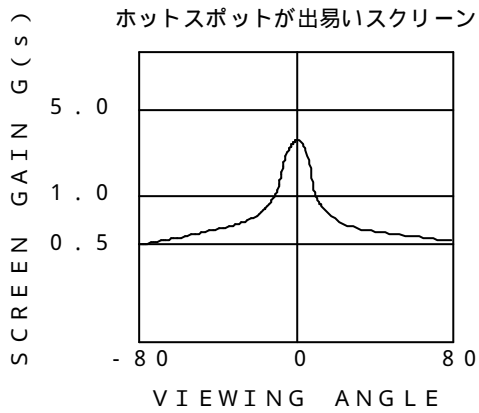


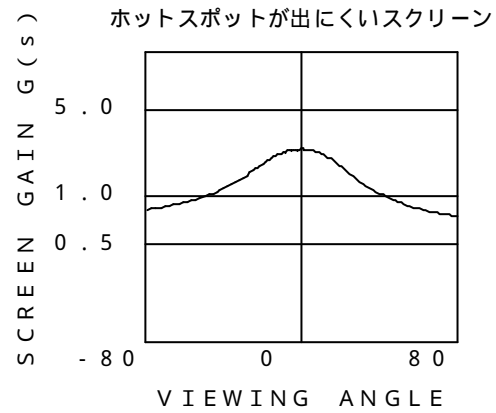
## ホットスポット（中心部分が周辺部より極端に明い現象）

投射型HDビデオプロジェクションは従来型テレビに比べ16：9のワイド型であり、スクリーン両サイドへの入射角は鋭角になりスクリーン中央部への入射角との差が大きくなります。これがホットスポットの生じる第1原因です。第2はスクリーン反射特性によるもので、拡散性の低く表面光沢のあるスクリーンはホットスポットの生じる原因になります。下記はその理由です。



1. スクリーンゲインが高い
2.  $\theta(H)$ ,  $\theta(V)$  が狭い
3. 表面反射（テカリ）がある

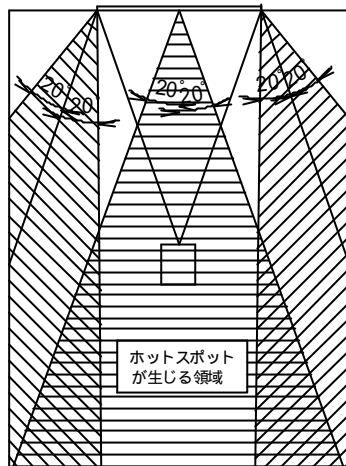
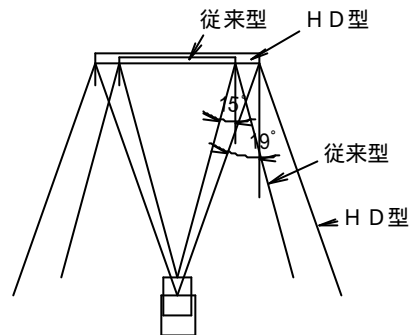
例： $G(s) = 3.5$   
 $\theta(H) = \pm 20^\circ$   
 $\theta(V) = \pm 15^\circ$



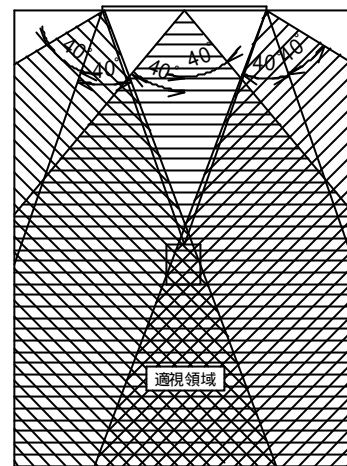
1.  $\theta(H)$ ,  $\theta(V)$  が広い
2. 表面反射（テカリ）がない（マット面）

例： $G(s) = 2.5$   
 $\theta(H) = \pm 40^\circ$   
 $\theta(V) = \pm 20^\circ$

### 従来型（4：3）とHD型（16：9）の入射角差



$\theta(H) = \pm 20^\circ$  のスクリーン  
 拡散性が低い為ホットスポットが生じる  
 適視領域がない



$\theta(H) = \pm 40^\circ$  のスクリーン  
 拡散性が高い為サービス領域が広い  
 適視領域（画面全体が均一な明るさになる）が得られる